

外国語科2年間の先行実施でどのような力が身に付いたか －主体的に思いや考えを伝え合う児童の育成を通して－

港区立白金小学校 主任教諭 玉木 脩一

1 私と外国語教育との関わり

現在教員として17年目を迎えた。教員として勤め始めた頃は、初任者として配属された学校で体育科の研究が盛んであったことから、体育科の研究に励んだ。その中で「運動の日常化」「体力の向上」を目指し、体育科の授業と行間体育の充実に努めた。また、体育科の研究を深める中で、体育科の学習に限らず、様々な場面で互いを肯定的に認め合ったり、励まし合ったりと、良好な人間関係が形成されていく様子を目の当たりにし、研究にのめり込んだ。

縁あって、教員8年目には、文部科学省よりオーストラリアの在外教育施設であるシドニー日本人学校へ派遣の機会をいただいた。シドニー日本人学校は海外子女が所属する日本人学級だけでなく、シドニーが位置するニューサウスウェールズ州のカリキュラムに則り、現地の教員免許を持つ教員が現地の児童を教える国際学級も併設されたユニークな学校であった。日本人学級の児童は、音楽や図工、体育を国際学級の児童と共に日英両語で学んでいた。英語力向上は自身の生活を切り開く切実な課題であり、伝え合う喜びやその難しさを日々感じ、その解決に向けて懸命に取り組む児童の姿が様々な場面で見られた。また、生活習慣や考え方の違いから日本文化の素晴らしさを実感したり、他国の文化や考えを尊重しようとする寛容さを大切にしたりする心情が育まれていた。

3年間の派遣を終えて帰国し、新たに東京都にある福生市立福生第五小学校に赴任することとなった。福生市は、施策として英語教育推進計画の策定、学習指導要領の先行実施、各小学校に週2日のALTの配置（8時15分～16時45分の勤務時間）、第6学年を対象とした公費での英検全員受検など、全市を挙げて英語教育の充実に努めていた。

そのような恵まれた環境の中、学習指導要領先行実施の2年間、私は単学級の担任として第5・6学年を続けて2年間担当した。新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材「We can! 1, 2」を用いた年間70時間の外国語科の指導の中で、児童一人一人がコミュニケーションを通して自己理解を深めたり、自己を開放したりし、また他者を受容したり、他者への気づきを広げたりし、よりよい人間関係が形成されていく様子を目の当たりにすることができた。本報告では、2年間の先行実施の中で、児童に育み、身に付けさせることができた力、またそれらを育む上で有効であったと考える実践を具体的に紹介していく。

なお本報告で取り上げるアンケート結果は全て、令和2年2月に福生市立福生第五小学校第6学年1組、児童38名を対象に実施したものである。

2 2年間の先行実施でどのような力が身に付いたか

1	自分の考えが相手に伝わるように相手意識（はつきり・大きな声・ジェスチャー・笑顔）をもって話すようにする。	92%
2	相手意識をもって相手の話していることを聞くようにする（相槌・繰り返し・質問）。	95%
3	自分分かる英語で何とか伝えたり、分からない言葉は先生に聞いて英語で伝えたりするようにする。	92%
4	友達やALT、先生など、誰とでも話したり、聞いたりするようにする。	89%
5	学習している表現や言葉だけでなく、以前学習した表現や言葉を組み合わせて伝え合うようにする。	95%
6	単に話したり、聞いたり、書いたり、読んだりだけでなく、自分と友達の考えや思いを比べたり、気持ちを広げたりしながら伝え合うようにする。	100%
7	ALTの先生の話し方をよく見たり聞いたりして、自分も真似するようにする。	87%

<Table 1 どのようなことを意識して学習に取り組みましたか。（選択回答）>

Table 1は、「どのようなことを意識して学習に取り組みましたか」を尋ねた結果である。およそ9割もの児童が各項について「意識している」と回答している。中でも質問6に対して「意識している」と答えた児童の割合は100%であった。

調査の結果を総括すると、児童は、学習した表現や語句を用いて単に話したり聞いたりするだけでなく、これまでに学習した内容を組み合わせて、自分の考えや思いが相手により伝わるよう適切に組み合わせ、また相手意識をもって伝え合おうとしていたことが分かる。

学習において、習得した内容を、思考力・判断力を働かせて表現を工夫し、相手意識をもって主体的に伝える力が育まれたことが分かる。もっと砕いた言い方をすれば、「学習した英語を駆使し、自分や相手の考えや思いが伝わり合うよう、工夫しながら相手に伝えたり聞いたりするコミュニケーション能力が育った」と言える。また、伝え合いを通して、相手の良さを発見したり、新たな考えや思いに気付いたり、コミュニケーションの価値に触れ、その楽しさや喜びに十分触れることができたことも成果として併せて見出すことができる。外国語科の目標として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する」ことが掲げられているが、まさにそれに即した資質・能力が育まれ、身に付いたと言える。

右図は「5・6年生の2年間の外国語の学習で「よく学ぶことができた！」と印象に残っているものを3つ選んでください」との調査に用いた質問紙の一部である。結果は以下の通りであった。

70%	日光東照宮外国人インタビュー
53%	My best memories (Y6 Unit 7)
29%	When is your birthday? (Y5 Unit 2)
26%	Hello, everyone (Y5 Unit 1) What do you want to be? (Y6 Unit 8)
21%	Where do you want to go? (Y5 Unit 6)

児童は、「よく学ぶことができた」と実感を伴っている学習として、上位3つに「日光東照宮外国人インタビュー」「My best memories」「When is your birthday」を挙げている。次項目では、これら3つの実践について詳細に説明する。

(1) 5・6年生の2年間の外国語の学習で「よく学ぶことができた！」と印象に残っているものを3つ選んでください。またその理由を教えてください。

5年	5-① Hello, everyone. やりとりしながら、会話を2分間続けた学習。	5-② When is your birthday? 友達にバースデーカードをつくって、それを届けた学習。	5-③ What do you have on Monday? 夢の時間割とゲストティーチャーを考えて、時間割から将来の夢タイム大会を開いた学習。	5-④ What time do you get up? クラスの起きる時間や寝る時間など生活の様子を調査した学習。
	5-⑤ She can run fast. He can jump high. 友達とか、先生の意外な一面を調べたり聞いたりした学習。	5-⑥ I want to go to Italy. 合計2回、行きたい国について調査したり、調べた国について発表したりした学習（マルチメディア）。	5-⑦ Where is the treasure? お宝マップを作って、友達を案内した学習。	5-⑧ What would you like? 国語でやったスペシャルゲストティーチャーお招きパーティのために献じたいものを集めてスペシャルランチをつくった学習。
6年	6-① This is ME! これまでに習った表現を使いながらちょっとパワーアップした自己紹介をした学習。	6-② 日光移動教室外国人インタビュー 日光東照宮で外国人にインタビューしたり一緒に写真を撮ったりした学習。	6-③ Welcome to Japan. 日本の良さが伝わるWelcome to Japanビデオを作ってステイプ先生に見てもらった学習。	6-④ He is famous. She is great. 映像教材を使って、第三者についての情報をいろいろ聞いた学習。
	6-⑤ My summer vacation 夏休みの思い出について実際の体験を書いた学習	6-⑥ What do you want to watch? 見たいオリンピックやパラリンピックについていろいろ尋ね合った学習	6-⑦ My best memories マイベストメモリーについて思い出の写真を並び、書いたり、それをもとに伝え合った学習	6-⑧ Junior high school life 中学校の学校生活で楽しみなことについて発表した学習

<Fig 1 調査に用いた質問紙の一部（3つを選択回答）>

3 実践

(1) Welcome to Japan! 外国人にインタビューしよう!



<Fig 2 日光東照宮にて外国人観光客に英語でインタビューする様子>



<Fig 3 質問カード>

などと例を挙げたりとグループごとに伝え方の工夫があった。

実際にインタビューを行うと、最も大きな課題は外国人観光客に声を掛けることであった。初めは緊張から思い切って声を掛けられずにいたグループがほとんどであった。しかし、一度声を掛けられると、明るく気さくに応えてくれる外国人観光客ばかりで児童は安心し、相手意識をもちながら、しっかりと目を合わせ、笑顔を大切にインタビューすることができていた。インタビューの最後に、“Can I take your photo with us?”と尋ねると“Sure.”と喜んで引き受けてくれた。最初のインタビューを終えると自信を得て、それ以降は率先して声を掛ける児童の姿が見られた。児童は、英語でインタビューできた喜び以上に、「日本が好き。」「日本人は優しい。」「文化が素晴らしい。」などのインタビューの回答に心が温かくなったと事後の感想でまとめていた。また、この経験を基に、これからの外国語の学習をもっと真剣に学んでいきたいと振り返った児童もいた。

<学習の進め方>

1	学習の進め方を知る。
2	尋ねる内容を確認し、尋ね方の練習をする。
3	ALT と担任を相手に、練習する。
4	日光東照宮の見学の合間に外国人観光客にインタビューする。
5	移動教室報告会（学校公開授業）で報告する。

福生市立福生第五小学校では、第6学年の6月に日光移動教室の学校行事を行う。最終日に訪れる日光東照宮は言わずと知れた世界文化遺産であり、そこを訪れる外国人観光客は非常に多い。そこで、これまで学習してきた外国語の学習を

生かし、日光東照宮でのグループ行動の際に、外国人観光客にインタビューしようという課題を設定した。どのような内容を尋ねたいかは児童に考えさせ、それを集約して共通の質問カードを作成した。質問・伝える内容は次の通りである。“Hello, can I ask you?”, “Where are you from?”, “Do you like Japan?”, “What is your favorite thing in Japan?”, “Can I take your photo with you?”, “Thank you. Have a nice trip.”

質問カードには、質問内容を文字として掲載し、また“Sorry, once more please.”, “Can you write it down here, please.”, “This one.”などと困った時に使える表現も併記した。

事前の学習では、質問した内容がきちんと伝わるよう「Clear Voice」「Eye Contact」「Smile」などと、毎時間の学習で意識させていることをより意識させることができた。また ALT と担任を相手にグループごとにインタビューの練習も行った。グループで役割分担をしたり、“What is your favorite thing in Japan? Sushi, tempura, onsen...”



<Fig 4 日光東照宮にて外国人観光客と一緒に記念撮影する様子>

(2) Let's Share Our Best Memories! 英語で思い出いっぱいシートをつくろう！

<学習の進め方>

1	学習の進め方を知る。
2	語句や表現の練習をする。 カルタ・友達の思い出予想・クラスの思い出ランキングなど
3	パソコンを使って好きな写真を選び、スライド1枚にまとめる。
4	思い出いっぱいシートに書く。
5	思い出いっぱいシートを使って、考えや思いを交流し合う。



<Fig 5 完成した思い出いっぱいシートの掲示>

We Can! 2 の Unit 7 には My Best Memory という教材がある。児童と共に6年間を振り返ると、たくさんの思い出があることから My best memory でなく、My best memories にすることとした。学習の導入では、既に取り組んだ卒業文集づくりと同様に、英語版卒業文集である「思い出いっぱいシート」をつくって交流し合おうという学習課題を設定した。領域は「書くこと」に絞った。書くことに領域を絞った学習活動を展開するのは We Can! 2 Unit 5 My Summer Vacation 以来、2度目であった。

学習前段では、カルタや友達の思い出予想、クラスの思い出ランキングづくりなどを通して語句や表現に十分に慣れ親しんだ。その後、私が2年間担任した中で撮りためた写真の中から、児童一人一人が思い出に残る写真を選び、タブレットパソコンを使って、スライド1枚に写真を貼り付け、まとめていった。児童は「あの写真を探しているけど、見つからない。」「こんなことあったなあ。」「こんな場面も写真に撮っていたんだ。」などと思い出話に花を咲かせ、楽しみながら写真を選んだ。単元のゴールへ向かう姿勢としては十分で、児童も期待が膨らんでいる様子が見て取れた。

書く学習では今回学習する表現である”I enjoyed ~.”, ”I went to ~.”, ”It was ~.”だけでなく、既習の”I like ~.”, ”I can ~.”, ”I want to ~.”などの表現も使うとより豊かに思いや考えを伝えることができることを確認した。また表現ごとに色別の画用紙に印刷した下書き用短冊を用意し、児童はそれを使って書いたり、短冊の順番を入れ換えたりして、より思いや考えが伝わるよう下書きを完成させていった。また下書きが完成したら、担任と ALT が「伝わる表現であるか」「大文字・小文字」「書いた語句の間隔」「ピリオド」などを視点として確認をし、思い出いっぱいシートに清書させた。例えば Sports Day についての清書が終わったら、次は Drama や Overnight Excursion などと自分が選んだ写真に関する新たなトピックに移り、再び下書き、清書と続け、少しずつ思い出いっぱいシートを完成させていった。

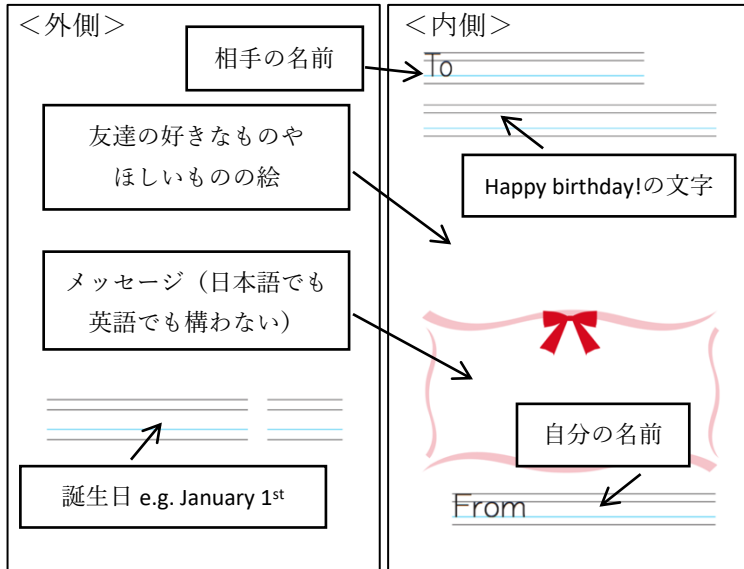
思い出いっぱいシートを仕上げていくことは卒業文集同様、大変なことであったが、児童は段々と出来上がっていく作品を喜びながら最後まで丁寧に仕上げた。完成した後は、思い出いっぱいシートを用いて友達と思い出を交流し合った。伝える児童は写真や書かれていることを見せながら伝え、聞く児童は頷いたり、”Me, too.”, ”I like it.”などと返答したりしながら聞いていた。

学習感想では「自分の思い出を全部英語で書き表すことができ嬉しかった。」「友達の話聞いて、そんな風感じていたのだと知って楽しかった。」「いい思い出がたくさんできた。卒業するのが寂しくなった。」などの感想が挙がった。



<Fig 6 思い出いっぱいシートを用いて交流する様子>

(3) When is your birthday?素敵な Birthday Card をつくって届けよう！



<Fig 7 Birthday Card
(半分に折り、外側から内側が見えないようにする。)>

<学習の進め方>

1	学習の進め方を知る。
2	語句や表現の練習をする。 チャンツ、ポインティングゲーム、ビンゴ、迷路など
3	ペアの友達に尋ねて、カードを完成させる。
4	なりきり Birthday Card を使って、カードを届け、学習の進め方や表現について確認する。(中間評価)
5	本物の Birthday Card を、心を込めて相手に届ける。

本単元の指導は、We Can! 1 Unit 2 When is your birthday?の教師用指導書で示されている言語活動を扱って指導を行った。

学習前段ではチャンツや、ポインティングゲーム、ビンゴ、迷路などを通して語句や表現

に慣れ親しんだ。その後は、ペアの友達に「誕生日」「好きなもの」「欲しいもの」などを尋ねながら Fig 7 のカードを完成させた。書く活動は前単元でアルファベットを書いた学習経験しかなく、特に January 1st のように誕生日を書き写す活動は難易度が高かった。しかし、友達の大切な誕生日カードをつくるという目的意識をもつことで、お手本をよく見て、丁寧に書き写すことができた。またカード内側には、友達に尋ねて分かった好きなものや欲しいものなどを絵に描いた。好きなフルーツを聞いてフルーツケーキにしたり、好きな色を聞いてその色で枠を描いたり、一人一人の工夫があった。

なりきり Birthday Card を使った学習では、それぞれがランダムに偉人役を務め、教師側で用意したなりきり Birthday Card を用いてそれを届ける活動を行った。これまでの学習経過の中で、学習状況が気になる児童を中心に、誕生日をきちんと尋ねたり、答えたりできているかを重点的に確認した。また次時は本物の Birthday Card を用い、同じ流れで学習を進めることを確認し意欲を高めた。

本物の Birthday Card を用いた学習では、あらかじめ座席の右半分と左半分で、カードが混ざらないように2色に分けておき、右側の席の児童が、左側の席の児童のカードをもって届けに行くという活動を行った。手がかりはカード外側に書かれている誕生日のみである。児童はその誕生日を手がかりに、”When is your birthday?”と何度も訪ねて回る。ようやく該当する児童が見つかると、カードを開き、中に書かれていることを基に”What color do you like?”, “What fruit do you like?”, “What do you want for your birthday?”などと確認する。もらう児童はまだカードの中が見えないことから、カードを早く手にしたくて仕方のない様子であった。最後に心を込めて”This is for you.”と伝えて両手でカードを渡す。もらった相手は、素直に喜んだり、照れたりしながら心を込めて”Thank you.”と返していた。

学習感想には「ようやく友達から誕生日カードをもらうことができました。こんなに嬉しいとは思っていませんでした。」「心を込めてつくってもらったカードなので、宝物にします。」などの感想が挙がった。後日、家庭訪問で児童宅を訪れた際、保護者から「カードをもらったことをすごく喜んで帰宅し、もらった誕生日カードを自室に飾っています。」といった話も伺うことができた。

4 指導の際に留意していること

これまで3つの実践を紹介した。その3つを始めとし、この2年間の実践の中で私が特に意識して指導してきたことを3点に絞って紹介する。

(1) 領域を絞った指導

新学習指導要領において、外国語は「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」の領域から構成されている。1つの単元で全てを網羅した指導も考えられるが、児童への負担は大きい。例えば国語科は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で構成されており、年間指導計画の中にバランスよく位置付けて指導を行っている。同様に、外国語においても、年間指導計画の中でそれぞれの領域を計画的に指導することが有効であると考えた。

例えば実践②の「When is your birthday? 素敵な Birthday Card をつくって届けよう！」では「話すこと（やり取り）」の領域、実践③の「Let's Share Our Best Memories! 英語で思い出いっぱいシートをつくろう！」は「書くこと」の領域に絞っている。もちろん、領域を「書くこと」に絞った場合、「聞くこと」や「話すこと（やり取り）」「読むこと」などの学習活動を行わないというわけではない。児童が十分に表現に慣れ親しむために、特に学習前段においては「聞くこと」や「話すこと」の学習活動を十分に行う。その上で、「書くこと」に領域を絞った主たる言語活動を行うようにした。また単元の目標や評価規準も同様に領域を絞って行った。そうすることで、児童の学習状況を適切に判断することができ、指導改善につなげることで、より確実に身に付けさせたい力を育むことができると考えた。

(2) 主たる言語活動の設定の工夫

児童が主体的にコミュニケーションしたくなる活動を「主たる言語活動」として設定した。例えば、実践①では「外国人へのインタビュー」、実践②では「思い出いっぱいシートの作成」、実践③では「Birthday Card を相手に届ける」がそれにあたる。

慣れ親しんだ語句や表現を目的や状況が明確な場面で活用し、相手意識をもって伝え合うことで、児童は思考力・判断力を働かせ、自己を開放したり、他者理解を深めたりすることができる。そのような言語活動を、児童の実態から適切に設定していくことが大切であると考えた。今回紹介した実践の他にも、次のような活動を主たる言語活動として設定して指導を行った。

領域：話すこと（発表）	単元：We can!2 Unit 8 What do you want to be?
主たる言語活動：将来の夢やなりたい自分についてのスピーチ大会	
・自分の思いや考えをより豊かに伝えようと、この単元で学習した語句や表現に限らず、既習の表現を組み合わせることで伝えることができた。パソコンでまとめたスライドを1枚提示し、Show and Tell方式で行った。	
・友達の内にも秘めたや思いや考えを知ることができ、真剣に聞いて友達の思いや考えを受け止めようとする主体的な聞く態度も育った。	
領域：話すこと（発表）	単元：Where do you want to go?
主たる言語活動：行きたい国の調査（計2回）と各国についての魅力を伝えるプレゼンテーション大会	
・1回目の調査で得票した各国を、3人のグループで担当し、写真を使ってスライドにまとめて、発表した。1回目の調査では1票しか獲得しなかったモルディブが、発表後の2回目の調査では7票を獲得し、大いに盛り上がった。	
・よい発表ができればランキングの変動につながるかもしれないことから、”You can see / eat / enjoy …”などの表現を使って、その国のよさを伝えようと主体的に活動に取り組んだ。	
領域：話すこと（発表）	単元：He can run fast. She can jump high.
主たる言語活動：先生の意外な一面発見クイズ大会	
・関わりのある先生のできること・できないことを尋ね、それをクイズにした。”He can't ride roller coasters.”、“She can eat spicy curry.”など意外な一面を知ることができて、正解を導こうと、よくヒントを聞いて考える姿が見られた。	

・どのような順序でヒントを出せばよいか思考を働かせたり、ジェスチャーを加えてより相手に伝わりやすいように工夫したりと、伝え方の意識が育った。

主たる言語活動は、単元のゴールとして設定し、単元の導入の際にはデモンストレーションを通してそれを児童に提示するようにした。また、各時間の Teacher's Talk では、ALT や校内の他の先生に事前に尋ねた話題などを扱い、繰り返して児童にデモンストレーションをした。児童は、現在学習している内容が、最終的にどのような活動につながっていくのかを具体的にイメージすることができ、教師による主たる言語活動のデモンストレーションは、学習の見通しをもたせることに有効であった。また単元構成を考える際は Table 2 のように構成した。

1	学習の進め方を知る。 担任、ALT による主たる言語活動のデモンストレーション
2	語句や表現に慣れ親しむ チャンツ、ゲーム性を取り入れた活動
3	主たる言語活動の予備活動 なりきり・相手を変えた活動など（中間評価）
4	主たる言語活動 単元全体の振り返り

< Table 2 単元の構成の仕方 >

(3) 主たる言語活動の充実に向けた指導計画の工夫と中間評価

主たる言語活動では、児童が相手意識をもって、思考力・判断力・表現力を働かせながら主体的に活動に取り組む姿を求めたい。よって、その主たる言語活動に取り組む時間は、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」を評価した。また主たる言語活動を円滑に進めることを意識するあまり、指導の中心が授業運営ばかりにならないようにしたいと考える。そのため、主たる言語活動の予備活動を単元の直前、或いは途中の時間に取り入れた。例えば、実践③の”When is your birthday? (8時間扱い)”では、第7時になりきり Birthday Card を用いた活動を行った。教師は語句や表現を正しく伝えることができるか「知識・技能」を中心に評価した。また主たる言語活動の例として紹介した”He can run fast. She can jump high. (8時間扱い)”では、「先生の意外な一面発見クイズ」を主たる言語活動に設定しているが、予備活動として第5時に「友達の意外な一面発見クイズ」を設定した。本来であれば一度で主たる言語活動に取り組めることが理想であるが、予備活動を取り入れることによって児童が安心感をもち、明確な目的をもって、伝え方を工夫しながら主たる言語活動に取り組むことができた。

5 まとめ

2年間の外国語科の先行実施の中で、児童には項目2で示したような確かな力が身に付いた。またコミュニケーションを通して、自己理解を深めて自己を開放したり、相手への気付きを広げて他者受容を深めたりすることができた。それにより学級には、互いを大切にし合う温かな人間関係が形成されていた。また Table 3 に示すよう、児童は将来、英語を活用して、様々な方法で自身の世界を広げていきたいと夢や希望を抱いた。急速に進展するグローバル化の中で外国語教育のもつ役割の大きさは言うまでもない。本学級では97%の児童が外国語を好きと答え、100%の児童が外国語の学習は大切であると答えた。そういった児童の期待や夢、希望に十分に答えられるよう一層外国語教育の充実に努めていきたい。

外国人の友達をつくりたい	92%
英語を使う仕事をしたい	71%
英語の本を読みたい	53%
英語のテレビや映画を字幕なしで見たい	82%
英語の歌を聞いたり、歌ったりしたい	87%
外国を自由に旅行したい	95%

< Table 3 将来、英語を使ってどのようなことができるようになりたいですか。(選択回答) >